



情報収集衛星に係る 平成29年度概算要求について

平成28年9月

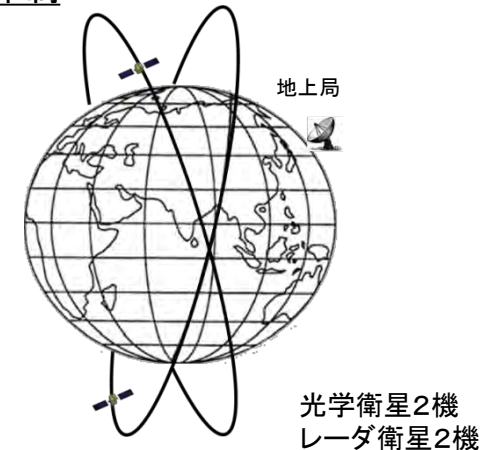
内閣衛星情報センター

○概算要求の方針

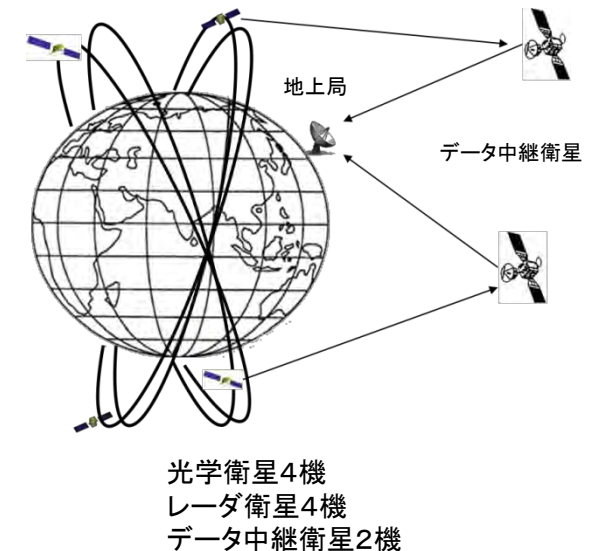
今年度に引き続き、ユーザー・ニーズに対応しつつ、合計10機(基幹衛星4機、時間軸多様化衛星4機、データ中継衛星2機)の整備を目標とし、平成29年度については、以下のような方針の下、情報収集衛星の機能の拡充・強化を図る。

- (1) 光学8号機、レーダ7号機及びレーダ8号機の開発企業選定の結果を踏まえ、着実に開発を進める。
- (2) データ中継衛星に対応した地上システムの構築を進め、データ量の増加に対応するとともに、必要な性能の向上を図る。
- (3) 各種情報を融合・処理した地理空間情報(GEOINT)の基盤整備を着実に進める。
- (4) 情報収集衛星システムの機能・性能の抜本的向上のため、重要技術の先行研究開発を進める。

現在の4機体制



10機のイメージ図



概算要求の内訳 (単位: 億円)

経費区分	平成28年度 予算額 (A)	平成28年度 第二次補正 予算案	平成29年度概算要求額(B)			対前年度 比較増減 (B-A)
				要望基礎額	要望額	
(1) 情報収集衛星の運用等	141	10	216	149	67	75
(2) 光学6号機、レーダ5、6号機の開発	249	28	108	84	24	▲142
(3) 光学7号機の開発	66	91	95	85	10	29
(4) 光学8号機の開発	28	0	27	27	0	0
(5) レーダ7、8号機の開発	26	0	109	66	43	83
(6) データ中継衛星の開発	46	34	91	91	0	45
(7) 光学多様化1号機の開発	2	0	3	0	3	1
(8) 実証衛星の運用	8	0	11	11	0	3
(9) 地理空間情報(GEOINT)基盤整備等	4	11	11	2	9	7
(10) 衛星技術の調査研究等	49	1	45	40	5	▲4
合計	619	175	717	557	160	98

(注) 四捨五入のため、必ずしも合計が一致するわけではない。

光学8号機: 15.7億円

レーダ7・8号機: 101.0億円

(注)P2の(4)、(5)の金額の内数

光学8号機

- 光学センサの高性能化(主鏡の大口径化、高精細検出器の採用)による大幅な画質向上、大型姿勢駆動装置の搭載による俊敏性の確保を実現。平成29年度は、システム設計等を実施。

レーダ7・8号機 (経費節減のため7・8号機を一括調達)

- 受信アンテナの複数搭載による撮像幅の拡大、発信電波の増強による画質向上を実現。平成29年度は、システム設計や衛星実機モデルに係る長納期品手配等を実施。

スケジュール

	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度	平成 34年度	平成 35年度	平成 36年度	平成 37年度	
光学8号機		企業選定↓										
			設計・製作								運用	
									▲打上げ			
レーダ7号機												
			設計・製作								運用	
									▲打上げ※			
レーダ8号機												
			設計・製作								運用	
									▲打上げ			

※ 宇宙基本計画工程表(平成27年度改訂)において、レーダ7号機の打上げは平成33年度と記載しているが、平成34年度に見直しの予定。

141.8億円

(注)P2の(1)、(3)、(6)の金額の内数の合計

- 第七期地上システムは、平成31年度の運用開始に向け、引き続きシステム開発を推進。データ中継機能を搭載し、「質」「量」「即時性」に関して、格段に能力が向上した情報収集衛星等を最大限に活用するよう、関係省庁との連携強化等に対応。
- 具体的には、関係省庁等利用者の利便性向上のため、操作性の向上、画像検索・閲覧の迅速化及び撮像後の速やかなダウンリンクや画像配信、また、そのデータ容量の飛躍的な増大へ対応。
- 平成29年度は、プログラムの製造を行うとともに、計算機の調達・設置後、試験を実施。

スケジュール

平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度	平成 34年度	平成 35年度
第七期地上システム 設計・製作、試験			第七期地上システム 運用				
			▲光学7号機、 ▲データ中継衛星の打上げ				

11.4億円

(注)P2の(9)の金額

➤ GEOINTシステムの利便性向上のため、主に以下4点の機能の追加・改修を実施予定。

- ①画素結合自動処理機能
- ②特定秘密／一般秘密文書の管理機能
- ③利用省庁におけるデータのダウンロード機能
- ④利用省庁の保全区画外での利用に向けた試行環境の整備

スケジュール

平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度	平成 34年度	平成 35年度
平成28年度 整備 設計・製作	平成29年度 追加・改修	運用					
第七期地上システム設計・製作(※)			第七期地上システム運用				

※本事業の成果は、第七期地上システムの設計・製作にも適切に反映させる予定

42.4億円

(注)P2の(10)の金額の内数

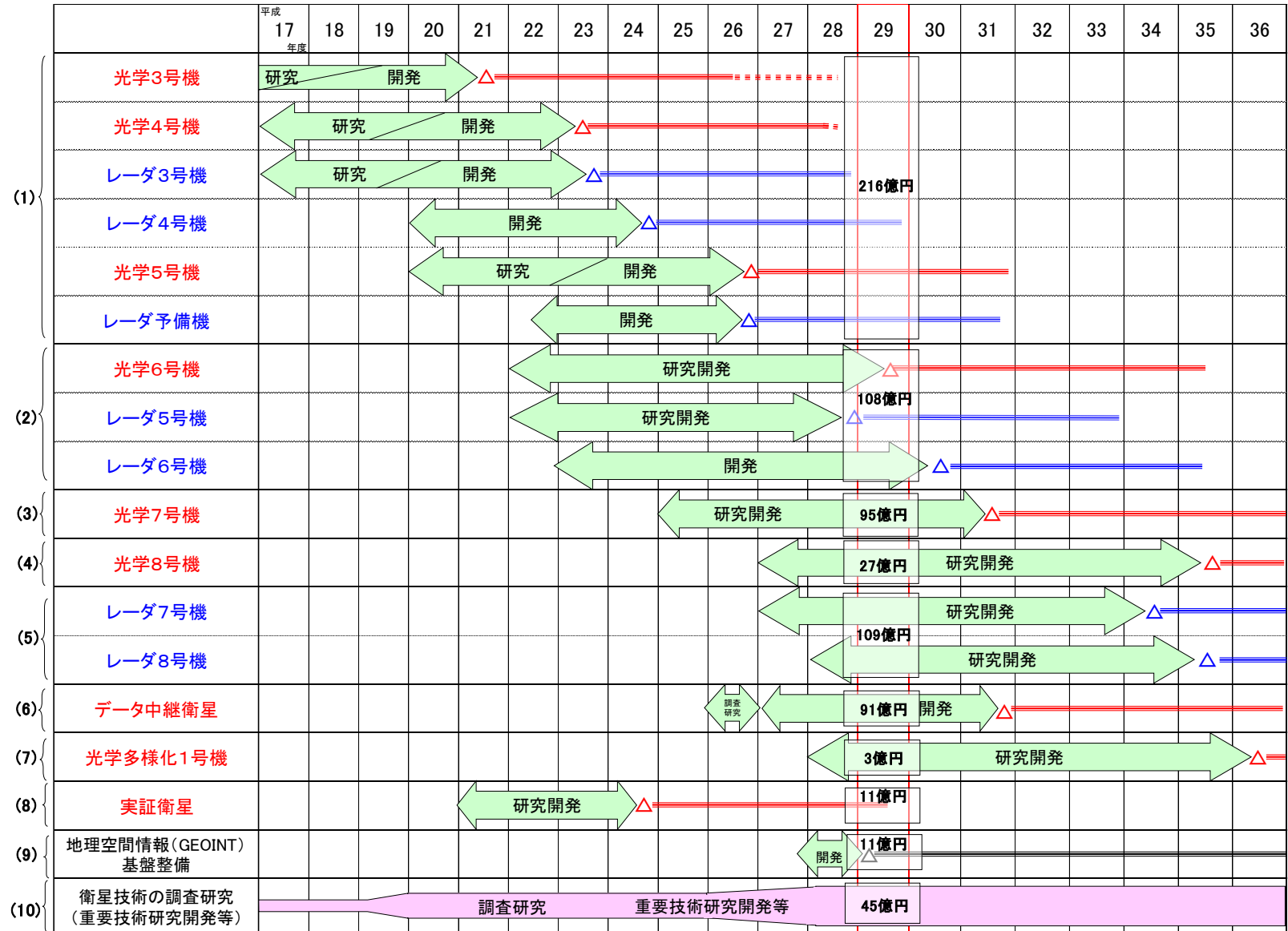
将来の技術動向を見据え、中長期的な視点で技術開発に取り組む。以下の内容を実施する予定。

- 光学センサ及びレーダセンサの性能向上として、分解能及び観測幅の向上に関する研究を継続する。
- 運用性の向上として、アジリティの向上のために姿勢制御駆動装置の研究及び位置精度に関する研究を継続するとともに、新たに長寿命化に関する研究及び画像処理に関する研究に着手する。
- 新たなセンサの導入として、赤外線センサの研究を継続する。
- 短期打上型小型衛星の研究開発として、衛星・地上システムの設計を継続する。

スケジュール

	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度	平成 34年度	平成 35年度
光学センサの性能 向上	画質の向上											
レーダセンサの性能 向上			撮像範囲の広域化 等									
運用性の向上		撮像地点数の大幅増加 等										
新たなセンサの導入	赤外線センサ導入											
短期打上型小型衛星 の実証研究					実証研究							

開発・運用スケジュール



△: 打上げ・運用開始

(注) 平成29年度概算要求時点での見通しであり、今後、変更が生じ得る。